

シラバス

科目		講師		
1. 開講式・閉講式・オリエンテーション		おおいた林業アカデミー講師 等		
背景と目的	おおいた林業アカデミーで1年間学び、林業の担い手としての自覚を促す。			
内 容	開講式、閉講式に参加し、研修生としての心構えを学ぶ。 オリエンテーションで、おおいた林業アカデミーの規則や研修の進め方を理解する。			
習得度等の到達目標	おおいた林業アカデミーの規則や研修の進め方を理解する。			
講義	(内容)	時間(h)		
		座学	実習	計
開講式	開講式に参加し、研修生としての心構えを促す。	3	0	3
閉講式	閉講式に参加し、研修修了生としての責務を考える。	3	0	3
オリエンテーション	おおいた林業アカデミーの概要について説明を受け、内容を把握する。	3	0	3
計		9	0	9
習得度の評価の基準と方法	林業分野に就業する心構えができたか、規則や研修の進め方を理解したかを評価する。 開講式及びオリエンテーションへの参加で判断する。			
取得できる資格	なし			

シラバス

科目		講師		
2. 森林・林業の基礎		おおいた林業アカデミー講師		
背景と目的	林業就業に必要な基礎知識や林業用語等を理解する。			
内 容	森林の成り立ちや林業の歴史、作業内容等に関する基礎知識を学ぶ。			
習得度等の到達目標	森林・林業の基礎知識や林業の作業内容、用語等を理解する。			
講義	(内容)	時間(h)		
		座学	実習	計
森林・林業の基礎知識	森林・林業の基礎知識や林業の作業内容、用語を学習する。 ①林業用語・森林の現状や林業史 ②植林から収穫までの林業サイクル ③木材の利用や流通 ④森林の持つ公益的機能、植生遷移等	24	0	24
計		24	0	24
習得度の評価の基準と方法	森林・林業の基礎知識や林業用語に関するテストにより評価する。 正答率7割以上を評価基準とする。			
取得できる資格	なし			

シラバス

科目		講師		
3. 社会人基礎		おおいた林業アカデミー講師、外部講師		
背景と目的	社会人として必要なマナーや税の基礎知識等を身に付ける。			
内 容	社会人として求められるマナーやコミュニケーションを学ぶ。 また、会社の運営に必要な経理に関する知識や確定申告等に必要な税金の仕組みについて学ぶ。			
習得度等の到達目標	社会人として必要なマナーやコミュニケーション能力を向上させる。 簿記の基礎及び確定申告の手法を理解する。			
講義	(内容)	時間(h)		
		座学	実習	計
マナー コミュニケーション	マナーやコミュニケーション能力を学ぶ。	12	0	12
経理(簿記)・税の基礎知識	簿記の基礎知識や確定申告方法を学ぶ。	9	0	9
計		21	0	21
習得度の評価の基準と方法	受講態度で評価を行う。 経理や税の基礎知識については、テストによる評価を併せて行い、正答率7割以上を評価基準とする。			
取得できる資格	なし			

シラバス

科目		講師		
4. 確認テスト		おおいた林業アカデミー講師		
背景と目的	習得度を評価する。			
内 容	研修内容に関する習得度を確認するためのテストを実施する。			
習得度等の 到達目標	各科目における基準のとおりとする。			
講義	(内容)	時間(h)		
		座学	実習	計
確認テスト	研修内容に関する習得度確認テストを実施する。	3	0	3
答合せ、解説	テストの答合わせ及び解説を行い、 習得度の確認・向上を図る。	6	0	6
計		9	0	9
習得度の 評価の基準 と方法	正答率7割以上を評価基準とする。			
取得できる資格	なし			

シラバス

科目		講師		
5. 林業労働安全		日本赤十字社大分県支部、外部講師、大分県		
背景と目的	林業は労働災害が発生した場合、重大な事故になることが多い。 林業労働災害に関する知識を学び、労働災害の未然防止や発生した場合の応急処置を習得する。			
内 容	林業労働災害の現状や法的責任、安全対策、危険予知に関する知識・技能を学ぶ。 また、救急基礎講習の受講により事故発生時の適切な対処法等を身につける。			
習得度等の到達目標	林業労働災害の現状や法的責任を理解する。 危険予知活動等による事故防止方法及び応急処置を習得する。			
講義	(内容)	時間(h)		
		座学	実習	計
救急基礎講習	事故発生時の対応及び応急処置方法を学ぶ。	0	6	6
蜂アレルギー対策 (アレルゲン検査)	蜂アレルギー検査を受診し、アレルギーの有無を確認する。	0	3	3
林業労働安全衛生一般	林業労働災害の現状や労働災害発生時の法的責任を学ぶとともに、VRを活用した疑似体験や、安全対策の先進事例等に関する研修を通じて労働安全対策の必要性を認識する。	18	0	18
危険予知活動 リスクアセスメント	危険予知やリスクアセスメントを具体的事例で学ぶ。	6	0	6
計		24	9	33
習得度の評価の基準と方法	林業労働災害や危険予知については、テストにより評価し、正答率7割以上を評価基準とする。 また、応急処置方法については救急基礎講習の受講証の取得の有無で評価する。			
取得できる資格	なし			

シラバス

科目		講師		
6. 林業施策等概論		おおいた林業アカデミー講師、大分県		
背景と目的	林業の振興に向け、国、県、市町村は様々な施策を講じている。それらの施策を学ぶとともに、森林・林業に関する規則や制度を学ぶことにより、林業振興の全体のイメージを把握する。			
内 容	林業白書や次世代の大分森林づくりビジョン等を参考に林業振興のための施策等を学ぶとともに、森林施業を行うにあたって知っておくべき森林計画制度や保安林制度、森林環境税の活用等を学ぶ。			
習得度等の到達目標	林業に従事するにあたり必要となる施策や制度等を理解する。			
講義	(内容)	時間(h)		
		座学	実習	計
林業白書 林業施策 森林環境税	林業白書を用いて林業の施策を学ぶ。 森林環境税の活用について学ぶ。	6	0	6
大分県の森林の状況 伐採届 森林経営計画	大分県の森林・林業の状況や森林計画制度について学ぶ。	3	0	3
森林整備の効率化 低コスト化	森林施業を効率的に行うポイントを学ぶ。	3	0	3
保安林と林地開発制度	保安林と林地開発制度について学ぶ。	3	0	3
計		15	0	15
習得度の評価の基準と方法	林業の施策や制度に関するテストにより評価する。 正答率7割以上を評価基準とする。			
取得できる資格	なし			

シラバス

科目		講師		
7. 林業への就業		おおいた林業アカデミー講師、外部講師、大分県 等		
背景と目的	林業分野の就業先を選定するにあたり、勤務労働条件や従事者の現状を把握する必要がある。 林業事業体の就労条件等の情報を収集し、就業先を決定する。			
内 容	林業事業体の業務内容や勤務労働条件等を学ぶとともに、就業ガイダンスや林業従事者との意見交換等により林業事業体への就労についての理解を深める。			
習得度等の到達目標	林業事業体の現状を理解し、就業希望先を決定する。			
講義	(内容)	時間(h)		
		座学	実習	計
林業事業体の給与体系 就労条件等の解説 森林の仕事ガイダンス	林業従事者の現状や林業事業体の就労条件について学ぶ。 就業ガイダンス等に参加し、林業事業体の情報を収集する。	12	0	12
就業者等との意見交換会 就業面談	アカデミー修了生等林業従事者との意見交換により、林業事業体毎の勤務労働条件等就業先の決定に必要な情報を収集する。 アカデミー講師との個別面談により、就業を希望する林業事業体を決定する。	12	0	12
林業事業体の業務内容	林業事業体の仕事内容について学ぶ。	3	0	3
計		27	0	27
習得度の評価の基準と方法	就業情報の収集や、就業ガイダンスへの参加により、就業先の候補を1社以上選定しているかを評価基準とする。			
取得できる資格	なし			

シラバス

科目		講師		
8. 森林調査		おおいた林業アカデミー講師、外部講師、大分県 等		
背景と目的	森林施業に必要な資源情報を把握するための調査手法を習得する。			
内 容	森林基本図の見方や測量・測樹の基本的知識、適切な密度管理、選木方法を学ぶ。 また、ドローン等を活用した効率的な森林資源調査について学ぶとともに、資源情報を活用して森林施業を提案する「森林施業プランナー」の役割や業務内容を学ぶ。			
習得度等の到達目標	森林基本図の見方や測量・測樹の知識、密度管理、選木方法を習得する。 ドローン等をも用いた効率的な森林資源情報の取得、活用方法を習得する。 また、森林施業プランナーの業務について理解する。			
講義	(内容)	時間(h)		
		座学	実習	計
森林基本図の見方 測樹(プロット調査)実習	森林基本図の見方及び測樹に関する技術を学ぶ。	6	12	18
森林資源調査実習	GIS、GNSS、ドローン等の最新技術を活用した調査の基礎的知識や情報解析の手法を学ぶ。	6	18	24
密度管理 選木実習	密度管理の考え方を学ぶとともに、選木の方法を学ぶ。	0	6	6
立木評価	立木の購入や販売の価格決定に必要な立木の評価技術(林価算法)を学ぶ。	3	3	6
森林施業プランナー	森林施業を提案するための森林施業プランナーの業務や技術、手法を学ぶ。	3	0	3
計		18	39	57
習得度の評価の基準と方法	森林基本図の見方や測樹、測量、資源調査、密度管理、選木、立木評価等の技術について、実習時に理解度を確認するとともに、テストにより評価し、正答率7割以上を評価基準とする。			
取得できる資格	なし			

シラバス

科目		講師		
9. 森林病虫害・獣害		おおいた林業アカデミー講師、大分県 等		
背景と目的	病虫害の被害により、林木の成長阻害や品質低下が生じることがある。 また、近年は、シカやイノシシ等による林木への被害が多発している。 これら病虫害獣による被害の状況や原因、その防除方法について理解する。			
内 容	基本的な病虫害獣の実態や被害状況、防除方法等を学ぶ。 また、近年被害が著しいシカ被害の防除に有効なシカネットの設置方法を実習する。			
習得度等の 到達目標	基本的な病虫害獣の実態等について理解する。 シカネットの意義を理解し、その設置方法を習得する。			
講義	(内容)	時間(h)		
		座学	実習	計
基本的な病虫害獣対策	病虫害や獣害に関する基礎知識を学ぶ。 また、捕獲された害獣について利活用を学ぶ。	3	6	9
防獣ネット設置実習	シカネットの設置方法を学ぶ。	0	6	6
計		3	12	15
習得度の 評価の基準 と方法	病虫害獣の基本的事項については、テストにより評価し、正答率7割以上を評価基準とする。 シカネットの設置については、実習においてスムーズに設置できたかで判断する。			
取得できる資格	なし			

シラバス

科目		講師		
10. 森林施業体系		おおいた林業アカデミー講師、外部講師、大分県 等		
背景と目的	森林整備を進めるにあたり効率的な施業を実施するために、循環型の人工林施業体系を理解する。 併せて、生物多様性等環境に配慮した森林施業を知ること、林業の重要性への理解を深める。 また、森林施業に不可欠な、造林補助金の概要を知る。			
内 容	人工林施業体系を学び、作業現場で確認する。 造林補助金制度を学ぶ。			
習得度等の到達目標	循環型の人工林施業体系を理解する。 生物多様性等環境に配慮した森林施業を理解する。 造林補助金制度の概要を理解する。			
講義	(内容)	時間(h)		
		座学	実習	計
人工林施業体系 作業現場視察	循環型の人工林施業を中心に、多様な施業体系を学ぶ。	3	9	12
造林関係補助金の概要 造林作業の目的と方法	造林補助金の概要、造林作業の目的と方法を学ぶ。	3	0	3
計		6	9	15
習得度の評価の基準と方法	人工林施業体系や造林補助金制度について、テストにより評価し、正答率7割以上を基準とする。			
取得できる資格	なし			

シラバス

科目		講師		
11. 種苗、苗畑管理		おおいた林業アカデミー講師、外部講師 等		
背景と目的	戦後造林された人工林の多くが伐期を迎え主伐面積が増加したことに伴い、再造林面積も増大している。 再造林に必要な山林種苗生産の現状や管理方法について理解する。			
内 容	苗畑の視察や採穂、挿付け実習を通じて、山林種苗生産の現状や技術を学ぶ。			
習得度等の到達目標	山林種苗の生産技術を理解する。			
講義	(内容)	時間(h)		
		座学	実習	計
苗畑管理技術	苗畑での種苗の管理技術を学ぶ。	0	3	3
採穂、挿付け実習	採穂、挿付け等種苗生産の実習を行う。	0	6	6
計		0	9	9
習得度の評価の基準と方法	種苗、苗畑管理について、視察や実習の取組状況により評価する。			
取得できる資格	なし			

シラバス

科目		講師		
12. 造林技術		おおいた林業アカデミー講師、外部講師 等		
背景と目的	造林作業員の減少が進み、造林作業の効率化及び安全対策の徹底が課題となっている。 造林作業の基礎知識や効率的な造林技術を学ぶとともに、安全な造林作業技術を習得する。			
内 容	コンテナ苗や低密度植栽、一貫作業システム等の効率的な造林技術を学ぶとともに、安全な造林作業や刈払機の取り扱い等を実習する。			
習得度等の到達目標	効率的な造林技術を理解する。 安全な造林作業と刈払機の基本操作および管理方法を習得する。			
講義	(内容)	時間(h)		
		座学	実習	計
森林土壌と適地適木	森林土壌と適地適木について学ぶ。	3	0	3
地拵え実習 植栽実習 一貫作業システム等	効率的な地拵えや、安全な植栽作業の技術を習得する。	0	6	6
	一貫作業システム等効率的な造林技術について学ぶ。	3	12	15
刈払機の構造と点検整備	刈払機の構造と点検整備の手法を学ぶ。	0	9	9
安全な刈払機操作	刈払機の基本かつ安全な操作方法を、実習により習得する。	0	18	18
安全な下刈り・除伐等	安全な下刈り・除伐の技術を習得する。	0	54	54
手工具の取扱及び整備実習	手工具の取扱及び整備の技術を学ぶ。	0	3	3
計		6	102	108
習得度の評価の基準と方法	効率的な造林技術や安全な造林作業について、テストにより評価し、正答率7割以上を評価基準とする。 また、安全な作業技術や刈払機の操作・管理技術を習得したか、実習の取組状況で評価する。			
取得できる資格	なし			

シラバス

科目		講師			
13. 伐採技術		おおいた林業アカデミー講師、外部講師 等			
背景と目的	立木の伐採にあたっては主にチェーンソーが使用される。安全性、生産性を向上するには、チェーンソーの構造を理解し、その安全な操作を習得する必要がある。 チェーンソーの取扱いに関する基礎技術や正しい伐倒技術等を理解・習得する。				
内 容	チェーンソーの構造や点検整備方法やチェーンソーを用いた伐倒・造材、林内作業車を用いた搬出等を実習する。 また、繰り返し実習することで安全なチェーンソーの操作を学ぶ。				
習得度等の到達目標	チェーンソーの点検整備技術を習得する。 安全な伐倒が行える技術を習得する。				
講義		(内容)	時間(h)		
			座学	実習	計
チェーンソーの構造と点検整備目立て		チェーンソーの構造と点検整備方法(目立て等)を学ぶ。	0	42	42
チェーンソーの安全操作		安全なチェーンソーの操作を実習で学ぶ。	0	66	66
スギ、ヒノキの安全な伐倒・造材 アイカメラの活用		スギ、ヒノキの安全な伐倒、造材方法を学ぶ。 また、アイカメラを用い熟練者の技術を学ぶ。	6	216	222
広葉樹、竹材等の安全な伐倒		広葉樹や竹材の安全な伐倒方法を学ぶ。	0	12	12
林内作業車を用いた素材の搬出		伐木研修を行った現地で、林内作業車を用いた集材・搬出技術を学ぶ。	0	18	18
計			6	354	360
習得度の評価の基準と方法	チェーンソーの構造や点検整備、安全な伐倒について、テストにより評価し、正答率7割以上を評価基準とする。 併せて、伐木・造材・搬出を安全かつスムーズに行う技術を習得したか、実習の取組状況により評価する。				
取得できる資格	なし				

シラバス

科目		講師		
14. 作業道設計		おおいた林業アカデミー講師、外部講師 等		
背景と目的	効率的かつ低コストでの木材生産には、作業道等の路網整備が重要である。また、近年は、壊れない作業道の作設が求められている。作業道開設の意義や手法等について理解し、効率的な木材生産に繋げる。			
内 容	作業道開設のための、踏査、測量、設計を学ぶ。 併せて、最新の路網設計支援ソフトを用いた作業道の設計方法を学ぶ。			
習得度等の到達目標	効率的かつ壊れない作業道の設計方法を理解する。			
講義	(内容)	時間(h)		
		座学	実習	計
作業道開設の方法、踏査	作業道の踏査(土質、傾斜、排水等の確認)、測量、設計を学ぶ。	6	6	12
FRDの活用	FRD(路網設計支援ソフト)を用いて、作業道の設計と現地確認を行う。	6	6	12
計		12	12	24
習得度の評価の基準と方法	作業道の意義や設計等が理解できたか、演習における設計書の作成状況や実習(踏査、測量)の取組状況で評価する。			
取得できる資格	なし			

シラバス

科目		講師		
15. 木材の利用		おおいた林業アカデミー講師、外部講師、大分県 等		
背景と目的	素材生産活動にあたっては、生産される木材の用途、需要、価格等を意識して行うことが重要である。 市場、製材所、住宅メーカー等の状況や意見等を知ること、マーケットインの発想による林業経営に繋げる。			
内 容	木材の特性(構造や性質)や製材加工について学ぶ。 原木から製材品に至る木材の流通を学ぶ。 住宅メーカー等を訪問し、川下の要望、需要について学ぶ。			
習得度等の到達目標	木材の構造や特性を理解する。 木材の加工、流通(原木、製品)を理解する。 製材品としての木材の利用を理解する。			
講義	(内容)	時間(h)		
		座学	実習	計
木材の構造及び性質	木材の構造や性質を学ぶ。	3	3	6
木材の流通、加工、用途開発等 市場、製材所視察	木材の流通や加工(採材、製材規格等)、新しい利用方法を学ぶ。	3	12	15
住宅展示場、公共木造建築物、 バイオマス発電所視察	住宅展示場や公共木造施設、バイオマス発電所等で木材の活用状況を学ぶ。	0	12	12
計		6	27	33
習得度の評価の基準と方法	木材の特性や流通加工等に関するテストにより評価する。 正答率7割以上を基準を評価基準とする。			
取得できる資格	なし			

シラバス

科目		講師		
16. 技能習得		おおいた林業アカデミー講師、外部講師 等		
背景と目的	素材生産現場では高性能林業機械の普及が著しいため、その安全な操作技術や効率的な作業システムについて、理解を深める。 また、素材生産現場で必要とされるワイヤー差しやロープワークの技術を身につける。			
内 容	ハーベスタを中心とした高性能林業機械の管理や操作、作業システムについて、基礎的知識及び安全技術を学ぶ。 ワイヤー差し及びロープワークを実習する。			
習得度等の到達目標	高性能林業機械の管理技術及び安全な操作技術、効率的な作業システムの知識を習得する。 ワイヤー差しとロープワークを習得する。			
講義	(内容)	時間(h)		
		座学	実習	計
高性能林業機械の安全技術 機械操作実習	ハーベスタを中心とした高性能林業機械の操作及び機能・構造、点検・整備、作業システムについて基礎的知識及び安全技術を学ぶ。	6	54	60
効率的な作業システム	高性能林業機械による作業システムが稼働する現地を視察し、作業道開設や山土場選別等を活用した効率的な素材生産に関する知識を身につける。	0	6	6
ハーベスタシミュレータ操作実習	ハーベスタシミュレータを用いてハーベスタの操作を体験する。	0	18	18
ワイヤーワーク・ロープワーク実習	ワイヤーワークとロープワークを実習で学ぶ。	0	15	15
林業技能検定講習	林業技能検定(国家資格)の受験に必要な知識を身につける。	0	27	27
計		6	120	126
習得度の評価の基準と方法	高性能林業機械の作業システム等については、テストにより評価し、正答率7割以上を評価基準とする。 ワイヤー差しとロープワークについては、実習の状況を確認し、スムーズな作業ができるかで評価する。			
取得できる資格	なし			

シラバス

科目		講師		
17. 資格取得		おおいた林業アカデミー講師、外部講師 等		
背景と目的	林業に従事するにあたって必要な、刈払機やチェーンソー、基本的な機械運転等の資格を取得する。			
内 容	各資格カリキュラムの講習を受講する。			
習得度等の到達目標	各資格を取得する。			
講義	(内容)	時間(h)		
		座学	実習	計
刈払機取扱作業安全衛生教育	刈払機に関する知識や操作技術を習得する。	0	6	6
伐木等の業務に係る特別教育	伐木作業、チェーンソーに関する知識や関係法令等を習得する。	9	9	18
小型移動式クレーン運転技能講習	小型移動式クレーンの知識や運転技能を習得する。	9	9	18
玉掛け技能講習	玉掛方法の技能を習得する。	9	9	18
車両系建設機械運転技能講習	車両系建設機械に関する知識や走行技術等を習得する。	12	24	36
走行集材機械運転特別教育	走行集材機械に関する知識や走行技術等を習得する。	6	6	12
伐木等機械運転特別教育	伐木等機械に関する知識や走行技術等を習得する。	6	6	12
狩猟免許(ワナ猟)	ワナ猟に関する知識や猟具の取扱方法を習得する。	12	0	12
計		63	69	132
習得度の評価の基準と方法	各講習等に係る資格の取得状況により評価する。			
取得できる資格	刈払機取扱作業安全衛生教育、伐木等の業務に係る特別教育、小型移動式クレーン運転技能講習、玉掛け技能講習、車両系建設機械運転技能講習、走行集材機械運転特別教育、伐木等機械運転特別教育、狩猟免許(ワナ猟)			

シラバス

科目		講師			
18. 里山の活用		おおいた林業アカデミー講師、外部講師 等			
背景と目的	林業に従事するにあたり、里山等を活用する知識を持つことは重要である。 里山に生育する樹木や危険な動植物に関する知識を得る。				
内 容	里山の成り立ちや植生、その利活用や危険な動植物の見分けかたを学ぶ。				
習得度等の到達目標	樹木の判別、その利活用方法、危険な動植物の見分け方等の知識を習得する。				
講義		(内容)	時間(h)		
			座学	実習	計
山歩きの実践		地形図を見ながら、山歩きを行い、地域の植生や動植物の観察方法を学ぶ。	0	3	3
樹木の見分け方及び危険な動植物		樹木や危険な動植物の見分け方について学ぶ。	6	6	12
計			6	9	15
習得度の評価の基準と方法	樹木の判別等の講師の質問に回答できたかで評価を行い、正答率7割以上を評価基準とする。				
取得できる資格	なし				

シラバス

科目		講師		
19. 特用林産		おおいた林業アカデミー講師、外部講師 等		
背景と目的	林業と特用林産物は、強い関わりがある。 大分県が生産量全国一の乾しいたけをはじめ、タケノコや炭など様々な特用林産物の利活用等について知識を得る。			
内 容	乾しいたけ生産の現状を学ぶとともに、栽培実習をする。 その他、木炭の生産方法、山菜等の活用方法を学ぶ。			
習得度等の 到達目標	大分県の乾しいたけ生産の現状及び生産技術を理解する。 木炭の生産方法、山菜の活用方法等を理解する。			
講義	(内容)	時間(h)		
		座学	実習	計
乾しいたけ生産の現状 栽培技術(玉切り、駒打ち等)	乾しいたけ生産の現状を学ぶ。 一連の生産技術を習得。	3	6	9
特用林産物(炭、たけのこ、山菜 等)の生産	特用林産物の種類(炭、たけのこ、 山菜、竹材、薬草等)、生産方法や 利活用方法について学ぶ。	6	6	12
計		9	12	21
習得度の 評価の基準 と方法	特用林産物に関するテストにより評価する。 正答率7割以上を評価基準とする。			
取得できる資格	なし			

シラバス

科目		講師		
20. インターンシップ		森林組合、林業事業体 等		
背景と目的	林業事業体の労働環境や仕事内容を実際に体験することで、林業就業の指針とする。			
内 容	林業事業体で実際の仕事を体験する。			
習得度等の到達目標	林業事業体の実際の仕事を理解する。			
講義	(内容)	時間(h)		
		座学	実習	計
各事業体における職場体験 体験報告	各事業体での仕事の体験学習。 インターン終了後、体験報告を行い 研修生間で事業体情報を共有する。	15	132	147
計		15	132	147
習得度の 評価の基準 と方法	各林業事業体でのインターンシップ体験の報告内容によって評価する。			
取得できる資格	なし			